

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局街路交通施設課
担当課長名：松井 直人

事業名	めいてつなごやほんせんれんぞくりつたいこうさじぎょう かのうえき ちやじよえきかん 名鉄名古屋本線連続立体交差事業(加納駅～茶所駅間)			事業区分	街路	事業主体	岐阜県
起終点	自：岐阜県岐阜市下川手 至：岐阜県岐阜市加納					延長	2.1km
事業概要：名古屋鉄道名古屋本線の岐南駅～名鉄岐阜駅間の約2.1km区間において、道路と交差している鉄道を連続して高架化し、12箇所の踏切を除却する。それにより、交通の円滑化や安全性の向上を図るとともに、地域分断を解消し、地域の活性化を図る。							
H11年度事業化	H 年度都市計画決定(未定) (H 年度変更)		H 年度用地着手(未定)		H 年度工事着手(未定)		
全体事業費	285億円		事業進捗率	0%		供用済延長	0km
計画交通量	359,014台時/日(踏切交通遮断量)						
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.8 (残事業) 2.8	総費用 (残事業)/(事業全体) 176 / 176 億円 事業費：176/176億円 維持管理費：0.08/0.08億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 489 / 489 億円 走行時間短縮便益：456/456億円 走行経費減少便益：19/19億円 交通事故減少便益：14/14億円	基準年 平成20年			
感度分析の結果 ・事業費 +10%：2.5 -10%：3.1 ・交通量 +10%：3.4 -10%：2.3 ・事業期間 +10%(1年)：2.8 -10%(1年)：2.8							
事業の効果等 ・12箇所の踏切除却による円滑なモビリティの確保 ・土地区画整理事業の実施による新たなまちづくりの促進							
関係する地方公共団体等の意見 交通の円滑化や住みよいまちづくりの推進のために必要な事業と認識している。							
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 変化なし							
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成16年から19年にかけて関連区間を含めた一体的な整備のあり方(事業手法)について関係機関との協議・調整を進めている。							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 本事業と一体的に整備を行う関連事業(境川河川改修事業、岐阜駅那加線整備、名鉄岐阜駅改築計画、土地区画整理事業)における関係機関との協議に時間を要している。今後も引き続き関係機関との調整を図り、早期事業化に努めたい。							
施設の構造や工法の変更等 変化なし							
対応方針	継続						
対応方針決定の理由	名古屋鉄道名古屋本線連続立体交差事業は投資的効果率及び、踏切除却による交通渋滞の緩和並びに分断された都市機能の回復などの観点から継続が妥当である。						
事業概要図							

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。